

# 『府がくやく便り』 No.11

## -スマホと子供の学力について-

京都府薬剤師会 学校薬剤師部会

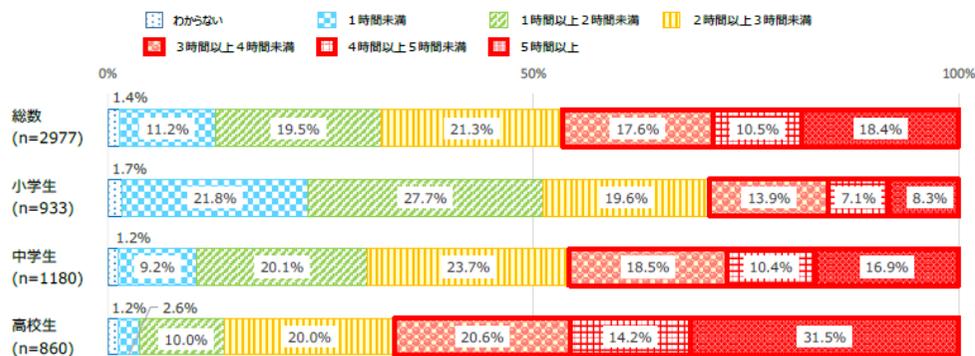
### ● 子どものスマホ（スマートフォン）保有率について

2019年総務省は、日本におけるスマホの個人保有率は67.6%であると発表しています。また内閣府の令和2年3月の報告では青少年（満10歳から満17歳）の93.2%がインターネットを使用していると回答し利用する機器はスマホが63.3%であり、年齢が上がるほどその割合は高くなると報告しています。このことから青少年のほとんどにスマホが浸透していることがうかがえます。

### ● スマホの利用時間について

では利用時間はどうなっているのでしょうか。

下図は内閣府の調査結果から、1日のインターネットの利用時間を示したグラフです。平均で約182分、高校生では約248分、目的は趣味・娯楽が最も多く約120分であったと報告しています。



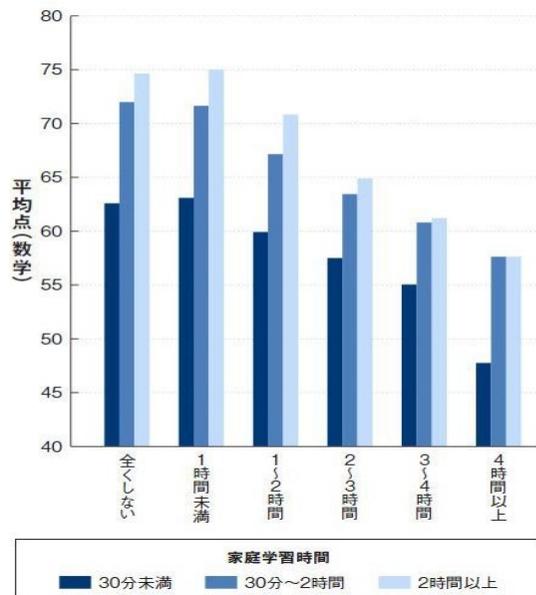
実際には上記時間に加えてLINEや携帯電話の利用があり、もっと多くの時間携帯・スマホを使用していると思われます。

### ● スマホと学力の関係

現在の青少年は多くの時間をスマホに費やしているという状況がわかりましたが、学力への影響はどのようなのでしょうか。なんと驚くべき調査結果があります。

まずは以下のグラフをご覧ください。

グラフ1-1 平日の携帯・スマホ使用時間（平成25年度）

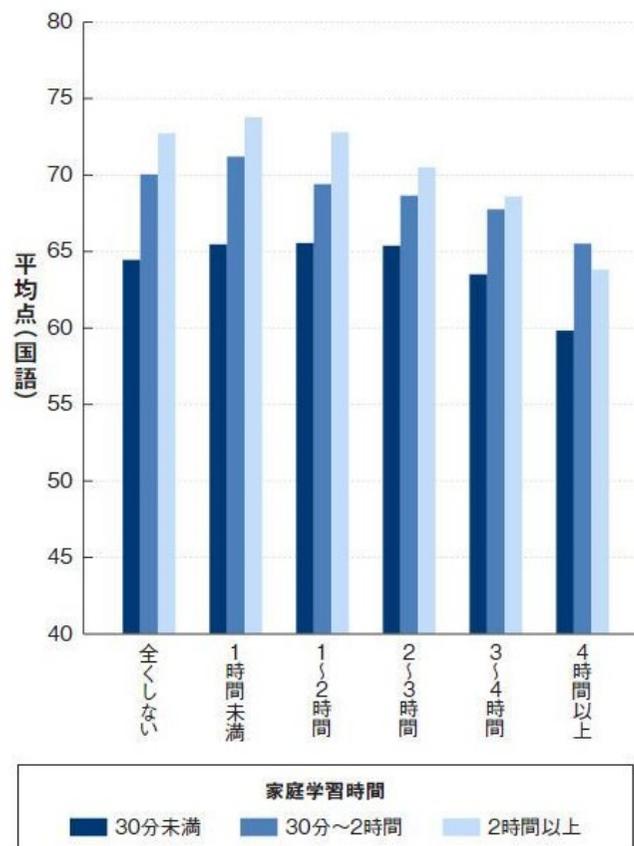


これは平成25年度仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査の結果です。仙台市立中学校に通う全生徒2万2390名のデータを解析したものです。調査はスマホ、携帯電話の使用時間ごとに6群に分け、更に平日自宅での勉強時間の長さごとに、毎日2時間以上勉強する群、30分から2時間勉強する群、ほとんど勉強しない・30分未満の群の3群に分けて集計したものです。調査を主導した東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授は次のような解釈を述べています。

- ① 自宅学習時間が長いほど成績が良い
- ② 自宅で勉強する、しないに関わらず、携帯・スマホを使う時間が長いほど成績が悪い
- ③ たとえ2時間勉強しても携帯・スマホを3時間以上使ってしまうと、ほとんど家で勉強しないのに、携帯・スマホを使わない生徒たちの方が成績が良くなる傾向にある

下図に国語の調査結果を示します。

数学と同じ傾向がうかがえます。理科や社会についても調査されていますが、ほぼ同じ結果でした。



## ● 調査の疑問点について

これらの調査からいくつかの疑問点が見えてきます。グラフからわかるように自宅で勉強している生徒もしていない生徒も、スマホの使用時間が長時間になるほど、等しく成績が低下していることから、スマホ使用による家庭学習時間の減少が学力低下の直接の原因である可能性は低いと考えられます。

次に、携帯・スマホの使用時間が長くなるほど、睡眠時間が短くなり、それが学力の定着に影響しているという点。スマホの使用と一口に言ってもLINE、動画、音楽とたくさんの機能やコンテンツがあり何が学力低下に強く

影響しているのかという点。また、全く自宅で携帯・スマホを使用しない生徒より、1時間未満使用する生徒の方が成績が良いという点（数学・国語に共通）。このような疑問点が浮かび上がってきます。

こうした疑問点について川島教授の研究グループは更に詳細な調査を実施し、これらの疑問を明確にしています。まさに驚くべき事実が明らかにされます。

今回はインターネット上の情報から引用しましたので、これ以上の内容は著作権の関係で誌面での紹介はできません。驚くべき事実を知りたい方は「スマホが学力を破壊する」川島隆太著（集英社新書）をご一読されてはいかがでしょうか。

この記事を読まれた方で、高校生以下のお子さんをお持ちの方、お子さんのスマホ使用時間はどれくらいですか？ 一度チェックされてみては・・・そしてわが子にもそろそろスマホをとお考えの方、これでもスマホを持たせますか？

## ※引用資料

令和元年度青少年のインターネット利用環境実態調査：内閣府令和2年3月  
スマホが学力を破壊するこれだけの根拠

(PRESIDENT Online 2018年3月29日)